



## 映画「星に語りて」 震災と向き合い伝える

俳優

今谷フトシ さん

東日本大震災、障害のある人と支援者の活動を描いた映画「星に語りて Starry Sky」で、南相馬市の共同作業所代表を演じています。原発事故があった福島で、避難できずに取り残された障害のある人たちへの支援を模索する役です。僕自身、この映画にかかわるまで、震災時に障害のある人たちが置かれていた状況を知りませんでした。台本を読んだときに、こんな大変な現実があったんだ、とそのことにまずショックを受けました。

僕は、阪神淡路大震災のときに母を亡くしています。肉親が亡くなったことは大きくて、自然災害が各地で起こるたび、思い出してしまうことから逃げるために深く関心をもたずにいました。自分のなかでは終わったこととしていたんです。そんなとき監督からこの映画の話をもらいました。

撮影で南相馬を訪れ、避難所や海岸沿いを見てまわりました。海岸沿いは整地しているだけで本当になにもないんです。いろんな事情があるのはもちろんですが、復興にもっと真剣にとりくまないといけないですよね。汚染された土壌が黒い袋に入ってそのまま積まれていて、震災から8年経ってもこのまま放っておくのか？ と思ってしまいます。現地で役のモデルとなった方にお会いしたとき、「僕たちは元気なんで。がんばっているんですよ」と言っておられました。「がんばる」ことを意識しないといけない立場というのは、絶対になにか不備がある状況ですよ。この映画を企画した藤井克徳さん（きょうされん専務理事）の言葉ですが、「差別の反対は無関心」なんです。現地を訪れて無関心が一番だめなんだと肌で感じ

ました。僕も震災に対して無関心で、気持ちの揺れはあっても直接なかをすることはありませんでした。今、被災地のことを問題にしたり、どう考えているか話題にすること自体少なくなりましたよね。でも、まだまだ終わっていないんです。

役を演じるうえで意識したのは、やるべきことを淡々とすすめる誠実な姿勢です。説教じみた熱い演技ではなく、ただどれだけ誠実にできるかを意識しました。シビアな役ですが行政との交渉場面ではユーモアのある演出も織り込まれています。ドラマとしても観られる映画です。大前さん（辻村翔役）をはじめ障害のある役者さんたちの演技も魅力的です。関係者だけでなく一般の方、知らない人たちにも本当に観てほしいですね。（談）



映画「星に語りて Starry Sky」写真提供：きょうされん

いまに ふとし／宮崎県出身。1991年より数々の舞台に出演し、2000年に演劇ユニット「アガトリイ」を立ち上げ、現在までそのすべての作品の作・演出を手がける。「水戸黄門」「るろうに剣心」など多数出演。高い演技力と独特の存在感で人気をかくしている。